



第8回 CAF フラメンコ・コンクール結果報告

去る2015年3月、東京芸術劇場プレイハウスにて、第8回 CAF フラメンコ・コンクールの本選が開催されました。ここにその結果についてご報告させていただきます。

● 3部構成の見ごたえある舞台

今回で8回目となったCAFフラメンコ・コンクール。3月15日(日)に開催されたコンクール本選には、2月に行われた二次予選を突破した10名が出場しました。

今回は、通常のコンクールに加え、毎年、夏にスペインのユニオンで開催されている、カンテ・デ・ラス・ミナス国際フェスティバルのフラメンコ・コンクールへの出場者を選出する予選会も同時に行われたため、第1部としてCAFコンクール本選、第2部に過去のCAFコンクール入賞者によるユニオン挑戦のための演技、第3部にカンテ・デ・ラス・ミナスの入賞者らによるエキシビションという、3部構成での開催となりました。

ご来場下さったお客様方には、本選出場者のみならず、歴代のコンクール入賞者達の演舞も併せてご覧いただくことができ、いつも以上に見ごたえのある舞台を楽しんでいただけたのではないかと思います。

さて、気になる結果ですが、今回優勝に輝いたのは、総合点58.97(技術点59.05、芸術点58.88)を獲得した里有利光子さん。次いで、総合点57.20(技術点59.54、芸術点54.86)の村井室さんが準優勝に入賞しました。

バタ・デ・コーラで無伴奏のマルチネテを披露し、会場からもひととき大きな拍手を得ていた里さん。年齢的に最後の挑戦機会であった今回のコンクールで、見事手にした栄冠に、感激もひとしおだったようです。



コンクール入賞者の面々。左から、準優勝の村井室さん、優勝の里有利光子さん、カンテ・デ・ラス・ミナス賞の田村陽子さん。



それぞれ個性溢れる演技で質の高い舞台を見せてくれたスペイン人アーティスト達。

なお、スペイン人審査員3名によって別途審査されたカンテ・デ・ラス・ミナス賞には、第6回コンクール優勝者の田村陽子さんが選ばれ、ユニオン行きの切符を手に入れました。

● 好評だったエキシビション

今回のエキシビションには、コンクールとユニオン予選会の同時開催を記念し、カンテ・デ・ラス・ミナス・コンクールの過去の入賞者(ヨランダ・オスナ、リカルド・デル・モラル、ホセ・トマス、オスカル・デ・マヌエル)に、フェスティバルの演目で喝采を浴びたアマドール・ロハス等、ユニオンに縁のあるアーティスト達が5名も来日してくれました。

新進気鋭のバイラオール、アマドール・ロハスの長丁場に渡るソロも圧巻でしたが、自らギターをかき鳴らしながら唄う、カンタオールのリカルド・デル・モラルや、フルートやカホンを自在に操るオスカル・デ・マヌエルら、斬新で個性溢れる演奏陣の姿もとても好評で、舞台全体としても大変質の高い内容だったという声をいただき、私共もうれしく思っております。

次回のコンクール開催は2017年の予定ですが、今後もスペインと日本の文化・芸術の架け橋となるべく、様々な機会を設けていければと思っておりますので、皆さまもどうぞご支援のほど、よろしく申し上げます。

カンテ・デ・ラス・ミナス・コンクール出場報告

カンテ・デ・ラス・ミナス賞を受賞し、ウニオンのコンクールに挑戦してきた田村陽子さんより、コンクールの出場レポートが届きました。



ウニオンの舞台上でタラントを踊る田村陽子さん。(撮影者:志風 恭子)

カンテ・デ・ラス・ミナスに出場出来るということは大きなチャンスであると同時に、日本代表の看板を背負って出向くという重大な責任を伴うものでした。私の踊りが日本のレベルと見られる。プレッシャーは相当ありましたが、多くの方の応援を受け、私は一人ではない！と思い直しスペインへ行きました。

ダンスパートナーで大親友のバイラオール、ヘスス・オルテガと巨匠クリスティナ・オヨス氏の全面協力を得られたことがとても支えになりました。オヨス氏に踊りを手直ししてもらえるなんて夢のような経験でした。練習からウニオンまでの旅、そしてコンクールの間もずっと一緒に居てくれ、ほとんど生活も共にしていましたので、普段の会話でも長い経験に基づいた貴重なお話をたくさん聴けてとても勉強になりました。

ウニオンでは、会場の雰囲気も街の方々もとても温かく迎えて下さり、リラックスして自分の踊りに専念出来ました。本番前はやはり緊張しましたが、この素晴らしいチームを信頼していましたので、直前には落ち着くことができ、いよいよステージへ。私は一番最後の出番でしたので、なんと夜中の2:30過ぎに踊りました。お客様も大分少なくなりましたが、時折かかる「オレ！」の掛け声、そしてステージから望んだ会場の風景は忘れられません。「テクニックを忘れて。唄と感情に身をまかせる…」というアドバイスを思い返し、その通りに踊れたのではないかと思います。

残念ながら決勝には残れませんが、あの会場でしか味わえない雰囲気を吸収してまたひとつ成長出来たのではないかと思います。日本で予選を開催し、出場をご支援下さったマルワ財団、そしてカンテ・デ・ラス・ミナス財団と私達日本人出場者の間に入り色々アレンジして下さいた小倉真理子さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。そして温かく応援してくれた全ての方々に、フラメンコを踊れていることに感謝いたします。この経験を活かし、これからも精進してゆきたいと思います。

●●● フラメンコ・ワークショップ in 名古屋報告 ●●●

去る8月、名古屋のMARUWAスタジオにて、マリベル・ガジャルドによるクルシージョを開催いたしました。

ピラール・ロベス舞踊団を経て、1981年にスペイン国立バレエ団に入団した彼女は、伝説のバイラオール、アントニオ・ガデスと共に、名作「血の婚礼」にも出演する等、長年にわたりトップダンサーとして活躍。現在も国立バレエ団の第一舞踊手を務める傍ら、若手舞踊手の育成にも力を注ぐなど、幅広い活動を続けている実力派ダンサーです。

今回は、彼女が持つ高い技術力と、エレガントで女性らしいしぐさを、皆さんに余すところなく吸収してもらおうと、普段、なかなか集中して学ぶことのできない、バタ・デ・コーラやマントン、アパニコ等、小物を使った振付けを指導していただきました。

上級者向けの昼クラスではバタ・デ・コーラによるアレグリアスとマントンを使ったカーニャ、中級者向けの夜クラスではアパニコを用いたグアヒーラのクラスを開講しましたが、スペインでも指導者としての実力を高く評価されている彼女だけに、難しいバタのさばき方等に関しても細かいところまで非常に丁寧に教えて下さり、参加者の方々にとっても大変満足度の高いレッスンとなったよう

です。また、各曲種ごとに音源も作ってきて下さったので、単なる技術の習得に留まらず、各ヌメロの情感を存分に感じながら学んでいただけたのではないかと思います。

毎年恒例となっている、財団主催のワークショップ。今回も、皆様の期待に応えられるような講座を企画したいと考えておりますので、どうぞご期待下さい！



レッスン終了後、マリベルと共に、はい、ポーズ！

スペイン研修報告

第7回 CAF フラメンコ・コンクールで第3位とコンセルバトリオ賞のダブル受賞に輝き、マドリードのコンセルバトリオで学んできた正木清香さんより、レポートが届きました。



正木 清香

コンセルバトリオは舞踊学院ということもあり、バレエ、コンテンポラリー、スペイン舞踊の各ジャンルで活躍したい20代のダンサー達が集まっていて、舞踊性のレベルが高く、スペイン舞踊のほか、クラシコ、ホタ、ボレーラ、民族舞踊などの授業が行われていました。

今回、私はスペイン舞踊の教授法学科に通いましたが、今まで本格的には習ったことがなかったクラシコ・エスパニョールを、パリージョの基本から動きとのコンビネーションに至るまで、基礎から応用まで学ぶことができ、とても勉強になりました。また、バレエやコンテンポラリーなどの授業もあり、踊りの基本、動きの幅の広さ、舞踊性の大切さなども再確認できました。

また、フラメンコでも、振付けの授業のほかに、教えるための振りの分解法や伝え方、踊りの組み立て方などの授業があり、フラメンコを論理的角度から考える新しい捉え方を学びました。

フラメンコは感覚的な部分や舞踊性だけでは表せないコトも沢山あると思うのでどちらも大切にし、今回の留学で学んだことを糧に、フラメンコの追求、舞台創作など、自分の活動の幅を広げていけたらと思っています。

平成26年度 助成作品 報告

平成26年度の助成作品を上演された中田佳代子さんと下山静香さんより、公演のご感想をいただきました。

「HERMANDAD ～融合～」

中田 佳代子



(撮影者：Lucas Vallecillos)

この度は、中田佳代子フラメンコ舞踊公演2014「HERMANDAD ～融合～」盛岡、大阪、東京公演に対する助成をいただき、誠にありがとうございました。

全国での公演開催は大変苦難の道でしたが、この助成をいただけたことで思い切り突き進むことができました。そして公演を見に来て下さったお客様、多大なるご協力やご支援をいただいた各地スタッフの皆様へ厚く御礼を申し上げます。

今回の公演は、人種、ジャンル、言葉を越えた「融合」をテーマに、フラメンコを通してこの世に生き、様々な土地を踏み、沢山の人間と触れ合ってきた私自身の経験に基づいて作品を創りました。

「理屈でもなく、形でもなく、頭でもない、素っ裸の心」。お客様、出演者、技術スタッフの皆様、あの空間にいた全員が、その一つのテーマ「心の融合」に向かって、共感し合い、アーティスト同士レスペクトし合いながら即興的に舞台を創っていったあの感覚は、今でも忘れられません。

まだまだ経験不足の私ですが、これからも失敗を恐れず、沢山のことに挑戦していきたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。恵まれた事に、日本にはたくさんの方々が来日します。今は、彼らからたくさんの方々の受け取りながら、スペインで得た物を消化する時間に当てて行きたいです。

「下山静香 スペイン室内楽シリーズ 第4回『アンダルシアン・マジック』」 下山 静香

今回は、当シリーズで初めて、作曲家を2人にしぼって「アンダルシア」が色濃く香る室内楽作品をクローズアップすることとなりました。特に、日本ではまだほとんど知られていないトゥリーナの室内楽を、実演の形で紹介できたことには意義があったと思っています。日本を代表する弦楽四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」のメンバーたちと、幅広く活躍の場をもつプラノ歌手・真幸操さんという素晴らしい共演者を得て、充実した演奏会となり、来場の御客様には大変喜んでいただきました。反省点は、師走の平日の夜公演ということもあったのか、集客に苦勞し、チケットの実売数が目標の半分ほどにとどまってしまったことです。昨今、クラシックの演奏会開催はますます苦しい状況にありますが、今後改善できるように、今回の経験を活かして策を考えていきたいと思っております。



(撮影者：権 安珠)

貴財団からの助成を受けることができなければ、今回の公演は実施することができませんでした。あらためて、この企画を評価していただきましたことに心より御礼申し上げます。

平成27年度 助成作品 決定

応募者名・作品名	決定助成金額	公演予定日
工藤 朋子 工藤朋子フラメンコリサイタル「あぜ道」VOL. 2	100万円	2015年6月10日・11日 於：ムジカーザ（代々木上原）
宇根由佳フラメンコスタジオエセンシア 「Corriente ～流れ～」	50万円	2015年11月3日 於：京都府民ホール ALTI
DANZARTE スペイン舞踊団 美と幻想のスペインⅢ	30万円	2015年11月7日 於：中野ゼロ小ホール
Jose Maria Gallardo y Ayaka Tanimoto Alma Espanola en Japon スペインの心を日本で	20万円	2015年12月予定 於：東京白寿ホール

平成27年度 助成作品 報告

平成27年度の助成作品の公演を終えられた工藤朋子さんより、公演のご感想をいただきました。

「工藤朋子フラメンコリサイタル あぜ道Ⅱ」

工藤 朋子



(撮影者：川島 浩之)

今年6月に念願の2回目のフラメンコリサイタル「あぜ道Ⅱ」を開催させていただきました。無事に終わられたのも、支えて下さった皆様、ご支援して下さいました MARUWA 財団様のお蔭と心から感謝しております。

2回目ということで、1回目のあの勢いを上回らなくては、何かあれ以上のものをやらなくては、と不安な毎日との戦いでしたが、やはりたどり着いたのは素直にフラメンコが好きだという気持ちでした。子供のように喜んだり、失恋したかのように落胆したり、または初恋のように胸が高鳴ったり、喜怒哀楽全てをフラメンコは共有し、包んでくれます。そんなフラメンコに出会えた感謝の気持ちを込めて、私の全てで踊りました。

リサイタル名「あぜ道」のように遠回りしたり、立ち止まったり、様々なことがあるかと思いますが、フラメンコの在るべき姿をいつも原点におき、新たな可能性にもチャレンジしていきたいと思っています。

真実一路…愛をもって踊ってまいります。本当にありがとうございました。

平成28年度 助成事業 募集案内

■助成金

平成28年4月1日～平成29年3月31日迄に完了予定のスペイン舞踊、音楽に関する公演、イベントの企画に対して総額250万円を助成します。

■助成対象

芸術活動を続けている個人、或いは団体が主催するスペイン舞踊、音楽に関する芸術の普及、向上につながるような国内公演、イベントの企画で、他機関からの助成を受けていないもの。尚、過去に100万円以上の助成を受けたことがある応募者の助成回数は3回迄とします。

■応募方法

応募用紙に上記活動の企画、予算、過去の芸術活動状況等を要約して記入の上、台本、或いはプログラム構成、過去の公演ビデオ又はDVD（10分間）と共に郵送のこと。応募用紙は当財団にご請求ください。また財団ホームページ <http://www.mwf.or.jp/> から入手できます。

■応募期間

平成28年1月10日～2月10日必着

■選考結果

意欲的で、優れた公演、イベントの企画に対して、財団の選考委員による厳正なる審査結果を平成28年3月31日迄に、本人宛通知致します。尚、助成金支給は公演終了後一ヶ月以内の報告書、写真、印刷物等の提出により実施されます。

■問合せ先

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団
〒105-0014 東京都港区芝3-16-13
MARUWA ビル2階
Tel.03-5419-6513 / Fax.03-5419-6514
URL <http://www.mwf.or.jp/>
E-mail info@mwf.or.jp